

ちば通研だより No.499

千葉県手話通訳問題研究会（発行責任者）米田 市子（編集者）渡辺 正夫
住所：〒260-0022 千葉市中央区神明町 204-12 千葉聴覚障害者センター内
FAX：043-247-1201 E-Mail：syuwa@nifty.com URL：<http://syuwa-chiba.la.coocan.jp>

「みんなで健康について考えよう」 ～ちば通研講座Ⅱ～

毎年、年2回ちば通研講座を開催しておりますが、今回のちば通研講座Ⅱは健康対策班が中心となって埜田和史氏を招聘しての学習会となります。埜田和史先生は、「過重な負担による手話通訳者の頸肩腕障害発症を発見し、長きに渡り相談・検診や追跡調査に邁進する傍ら、全国各地で講師活動を続け、手話通訳者の健康を守るルールを普及させ、手話通訳者の健康管理制度の構築に貢献している」として、2029(令和元)年12月17日(火)に第71回「保健文化賞」を受賞され、翌18日(水)には皇居において天皇皇后両陛下の拝謁を賜りました。また、同賞に合わせて、厚生労働大臣表彰、朝日新聞厚生文化事業団賞、NHK厚生文化事業団賞も受賞しました。

講座はハイブリッドで開催します。是非、多くの方の参加をお待ちしております。

日 時：2024年11月3日(日) 14:00-16:00

会 場：松戸市健康福祉会館 ふれあい22 3階 研修室

テーマ：「健康にはたらくために」

講 師：埜田 和史 教授（びわこリハビリテーション専門職大学
一般財団法人全日本ろうあ連盟顧問）

申込締切：2024年10月28日(月) 右のQRコードから

URL：<https://forms.gle/N4gTF7jrvRxRAnYVA>



9月24日時点でのちば通研の会員数は310人
(読者会員会員数は13人)

2024年度の目標数は330人です
数は力！みんなで会員を増やしましょう～

全通研創立50周年記念 シンボルマーク
愛称は「ふいーる(feel)」です。可愛がってね。

地域班会議報告

9月1日(日) 9:30~12:15、Zoom ミーティングルームにて、第2回地域班会議を開催。参加者は役員を含めて30人でした。主な内容は以下のとおりです。

- 1 会員拡大…8月31日現在309人、読者会員13人。四街道市は今年度千葉市班に参加しているが、新規に2人が入会したこともあり今後に向けて協議する予定である。50周年記念誌の取りまとめを各地域班で行うが、浦安、四街道は別途になる。「その他」の方はHPを見ていないかもしれないので、個別にお知らせをする。ご存じの方がいれば声掛けをお願いしたい。
 - 2 地域班講師派遣事業…2024年度に実施が決定していた5班の内、市原班は地区講座を開催するため、その他で希望する班を募る。成田班から希望が出ている。
 - 3 会計について…定期総会での各班からのご意見を参考に、「会計チーム」を作った。交通費の受渡しについては、行事の際に行い、お会いできない方には振り込む。但し、ゆうちょの手数料無料が月5回までのため、時間をいただくことがある。
 - 4 地区別会議…11:25~11:40、地区別会議を開催。それぞれの地区講座の運営などについて話が進んでいる。役員の協力も得てハイブリッド開催を検討していく。
- ※ 今後、全通研50周年記念、ちば通研集会、関東通研20周年記念など行事が目白押しです。ぜひお誘いあわせの上ご参加ください。

次回の地域班会議は、12月1日(日)オンラインの予定です。

(組織部 上利 理紗)

冒頭の会長さんからのご挨拶は、毎回、全国の仲間たちに心を寄せた内容で、最近の運動を知ったり、今後の活動の指針になったりしています。今回は、宮崎での地震後の南海トラフ地震臨時情報が発表されたことや、大雨による災害が発生しており、川の近くにいたらどのように避難したらよいかを地域でも話し合うとよいとお話でした。習志野班では、9月は毎年手話サークルと合同定例会にて「防災」をテーマにしています。ろう者、サークル員の皆さんと災害について意見交換、情報共有をしていきたいと思えます。講師派遣を利用した場合、一般からの参加費500円の統一、地区別講座の情報、会員募集の悩み、手話通訳者の増員への取り組みなどの話題は、他の地域班でも同じような悩みを抱え活動を工夫されていることを知ることができて、励みになります。

(習志野班 春山 直美)

第2回目の地域班会議を9月1日(日)にZoomで行いました。議題は毎回盛りだくさん。本部からの様々な報告の中には班活動をする上での基本的な確認事項の説明もあります。今回は地区講座や地域班講座の講師派遣に伴い参加費の取り扱いが決められたこともあり要チェック。各地域班からの活動報告や、ブロックに分かれての情報交換や確認ありと、9時半から正午まであっという間に時間が過ぎてしまいます。パソコン画面を通してとなると操作が心もとない私は、接続に始まり、発言の時に音声が出ているのか、逆をやっていないかどうかもドキドキです。ちなみに会議中の我が家の部屋の扉には「会議中！立入禁止」の表示を貼っています。それでも扉が開くこともあり……。

(鎌ヶ谷班 市村 優子)

『怖い たんこぶ』(p6)の掲載について

年を重ねると何の前触れもなく、突然病気を発症することが増えてきます。今回、高齢者に典型的な『慢性硬膜下血腫』の闘病体験を、通訳者の田村貴子さんより寄稿いただきました。

医療班コーナーで3回にわたり連載します。皆さん、ぜひご一読ください。

(医療班長 北原 洋貴)

手話を考えるフォーラム報告

9月21日(土)、22(日)の2日間、江戸川学園おおたかの森専門学校(流山市)にて開催され、4つの分科会での討議、全体会での発表、特別講演等がありました。

主な内容は以下のとおりです。

＜第1分科会 「BCP」対策＞ 災害時でも、らいおんグループや相談・通訳派遣事業を継続させるための方法を考える。利用者、職員を守るため、臨機応変ではなく、事前の計画と準備、対策を検討。一極集中からサテライトへの必要性も、長期的に考えていく。

＜第2分科会 防災・減災のために手話サークル員として何が出来る？＞ 聞こえない人とサークル員がどこに住んでいるかをハザードマップに落とし込み、地域での助け合いにつなげる。普段から顔を合わせることが、いざという時の意識付けになる。

＜第3分科会 防災の手話・避難時の意思疎通は？＞ 避難所運営の要望は、平常時から行政に出す。アイドラゴンを公的施設、福祉避難所に設置する要望も、各地域で取り組む。ハンドブックには災害時の手話が掲載されているが、浸透していない状況。ともに学ぶ必要性あり。

＜第4分科会 災害時に聞こえない人が安心できるには＞ 災害発生前、発生後に分けてグループ討議。一堂に会することで、それぞれの地域の防災対策の状況が分かる。各自、地域に持ち帰って学習、活用しさらに行政への要望へもつなげていく。

＜中央大学研究開発機構教授の秋山哲男氏の講演＞ 防災対策についてユーモラスな裏話も交えたお話。命を守るためには正常性バイアス(自分は大丈夫。たいしたことないだろう、と状況を過小評価して心を落ちつけようとする心理)に陥らないこと。他人の行動を伺い同調することなく、自分で判断し行動する力も大切。耐震化、家具の転倒防止、出火防止対策をすることで確実に減災になる。発災時、普段の行動範囲内にいるとは限らない。高層階、地下鉄、人混み、どこにいても「今災害が起きたら？」を考えておくことが個人のBCPになる。

(事務局 折原 由紀子)

BCPについての知識を深めたいと思い、第1分科会に参加しました。背景や効果を学び、「千葉聴覚障害者センター」や「らいおん事業所」における事業を継続するための対策や課題など多岐にわたり知ることができました。災害は突然発生します。そのために、さまざまな場面を想定した防災訓練の重要性、緊急時における正しい情報の収集と伝達、そして行政、関係機関、近隣との連携の必要性を感じました。また、聞こえない方の経験談から、情報がないことへの不安や、ろう重複者への支援など、多くの意見が出されました。命を守ること、連携、安否確認等、BCPの意義を考え、特別講演では日頃の備えや対策について、学びを深めることができました。

(流山班 清水 未来子)

第2分科会「サークル」人数が140人と多く10グループで討議。

- ・「防災カルタ」で大切と思うカードを選び理由を話し合った。多く選ばれたのは【い】一番は自分の命を守ること。自助・共助・公助について話し合う。ろう者の存在をお隣、ご近所、自治会等に知ってもらうには普段から近所付き合いが大切。

- ・高森さんのミニ講演は令和元年の台風で受けた被害体験、復旧作業のご苦労。停電時に懐中電灯とペットボトルを使いランタンにした工夫など実演。

- ・特別講演では【正常性バイアス】が印象的でした。集団と異なる行動をとりにくい心理状況が起こり災害時にマイナスに働くことがある。災害について再考の機会になった。

(船橋班 矢吹 八重子)

「ろう重複者とともに よしえが語る！」 Vol.7

『らいおんぐる一ふ』には、たくさんの仲間が通っています。自宅から通所している人、「らいおんホームそが」で生活し、そこから通う人、別の入所施設から通所している人。みなさん個々の状況により、それぞれの生活の場から、千葉聴覚障害者センターが行う送迎支援によって、充実した日中活動に参加しています。

「らいおん工房」

千葉市のワークホーム制度からスタートした「らいおん工房」は、平成21年に就労継続支援B型事業所となりました。県内のろう重複障害者（仲間）が、さまざまな作業を通して、仲間同士の育ち合いの場となっています。一生懸命に作った指文字の缶バッジは、全通研の関ブロや全国集会などでも販売。全国の皆さんに買っていただきました。「昔買った缶バッジ、今も持っているのよ」と声をかけてくれる人がいると聞きました。うれしいですね。現在も、自主製品製作・農作業・清掃作業・新聞発送作業・販売活動等、それぞれの得意分野を活かして取り組んでいます。

コロナ前は毎月1回、らいおん工房1階でらいおん喫茶が開催されていました。近所の方々やサークル会員などたくさんの方が来られて、仲間の給仕で、仲間が作ったクッキーやパウンドケーキなどを食べながら、交流。時には、らいおん千葉の仲間が手話で紙芝居を披露してくれることもありました。手話歌もありましたね♪ 私も時々顔を出して、美味しい・楽しいひとときを過ごさせてもらいました。

現在は喫茶ではなく、らいおんマルシェが第3金曜日に開かれています。お昼前に売り切れてしまうこともあるので、ぜひ早目のお時間にお立ち寄りください。



【らいおん工房】

自然にふれあい収穫の喜びに取り組んでいる農作業では、収穫した野菜をらいおん工房と千葉聴覚障害者センター1階で販売。ご近所のみなさん、工房やセンターに来る方々が新鮮野菜の販売を楽しみにされています。天候状況や、作業時間外での水やりなどの農作業は、職員や農作業ボランティアのみなさんに支えられています。

『らいおんぐる一ふ』の機関紙は、ちば通研だよりと一緒に郵送されています。らいおん工房・らいおん千葉・らいおん神明・らいおん香取の日常の様子が掲載されており、ぜひご覧ください。

（飯泉 よし江）

次回に続く⇒

特集 全通研創立50周年記念 ちば通研版 「全通研とわたし」

VOL.10

「全通研と N-Action との出会い」

わかしお班 今野 悠平

この度は全通研創立 50 周年おめでとうございます。今回は 50 周年を記念した企画ということで、通研会員としての経験が浅い身ですが僭越ながら筆を執らせていただきました。拙い文章ですが、どうぞお許してください。

私が全通研と出会ったのは大学 3 年生くらいの頃です。その頃は大学で福祉を学ぶ傍ら、学内の手話サークルで活動しながら、サークルの友人と共に県内の手話に関するイベントに参加したり、地域のサークルに通ったりと手話やろう者と関わる機会を増やそうと熱意に溢れていました。その時、いろいろと活動を共にしていた友人を通じて、現 N-Action ちば代表の上利さんとお会いしました。当時はまだ N-Action ちば発足前で福岡にいる頃に N-Action 活動をしていた上利さんから「千葉県でも N-Action を発足させたい」という話で全通研について知りました。その後、しばらくして全通研へ入会しましたが、その頃は「手話やろう者についてもっと学びたい」という気持ちだけで会員となったため、全通研についてはほとんど分かっていませんでした。

次に、私が全通研の会員として印象的であった活動についてお話ししたいと思います。

1 つ目は、2019 年の「千葉県内大学等手話サークル夏フェス」です。このイベントは N - Action 準備会の頃に構想を練り始め、準備段階から大学生とともに企画を進め、イベント当日は 6 大学 8 サークルの学生 46 名と N - Action ちばメンバーを合わせ計 57 名参加となりました。イベント開催の効果としては、当時は学生として参加してくれた方が数年後に全通研へ加入してもらうことが出来ました。また、それぞれの大学同士が交流するきっかけにもなり、大学手話サークル特有の悩みを共有することができたり、イベント後にお互いの大学祭へ遊びに行ったりしたとの話も聞くことができました。

2 つ目は 2019 年の岡山での N - Action 合宿です。私が合宿に参加したのは、この一度だけですが、他県の N - Action メンバーとの交流のなかで、世代ならではの悩みを共有することができたりとさまざまな刺激を受けとったりすることができました。

3 つ目は 2019 年の聴覚障害者協会関東青年部主催「関東デフレクリエーション大会」です。会場が成田市であったため、N - Action メンバーとして実行委員に入り、青年部と共に企画運営を行いました。N - Action の活動の柱の一つである「県青年部との協力」という部分を肌で感じるすることができました。

4 つ目は 2021 年 11 月に開催された埼通研 N - Action メンバーとの合同企画です。コロナ禍の為、オンライン上での交流会でしたが、互いの県の魅力などを紹介しあいました。その後、第 2 弾は参加対象を関東、非会員まで広げた交流会も実施することができました。この時も合宿に参加した時と同様、N - Action 世代同士ならではの刺激を受けることができ、関東ブロックのなかでの繋がりを強めることができました。

【夏フェス 2019 年 8 月】



以上がこれまでの印象的であったエピソードです。今後も可能な限りで全通研の活動に参加させていただきたいと思います。長々と書き綴った拙い文章でしたが、読んでいただきありがとうございました。今後も全通研の益々の発展を祈念しております。

医療班コーナー



『怖い たんこぶ I』

元気しか取り柄のない田村が突然 フラフラと・・・救急車で病院に直行

《発症前》 4月26日（メモ帳にあり）狭い歩道の坂道で、電動自転車に乗りヘルメットを着けずに転倒し、車道に投げ出されました。日中で車の往来も少なく、とおりがかりの乗用車の女性が降りてきて、自転車を片付けて声をかけてくれました。

私は恥ずかしさもあり「ありがとうございます。大丈夫です」と答えましたが、頭を打った衝撃でめまいがし、暫く立ち上がれず、うずくまっておりました。

頭の左に大きなこぶが出来ていましたが、その後の生活は普段通りの日常を送り、通訳も担当していました。

《発症の前ぶれ》 6月26日夜中にトイレに行き、立ち上がれず膝から崩れ落ちてきました。両手で便器を持ち30分位汗だくになり、やっとの思いで寝室に戻りました。当日は早朝と午後と2件の通訳予定がありました。

夜中立ち上がれなかった事と体の不調は結び付かなかったのです。

身支度を整えこの日は電車とバスで現場に向かいました。

私と会った聞こえない方は「どうしたの？ 元気がないね」と何度か私に投げかけてきました。また「今なんと言った？」と聞き返されることも。

自分ではいつもの手話と違うなんてサラサラ思わず「大丈夫よ」と繰り返していました。終了後、次の時間までここで休んでから行こうと考えました。

その間も何事もなく、次の現場に向かおうと千葉駅に到着。

《発症の時》 千葉駅のホームの最前列に並びました。何の前触れもなく突然右側にヨタヨタ後ずさりし、隣の列の人に体当たり、戻ろうとしてまた右へとよろめき、その度に「ごめんなさい」を繰り返す。

最前列で並んでいた女性が私の腕を掴み「医務室に行きましょう」と連れて行って下さいました。医務室ですぐにその女性が「右麻痺がある」と伝えておられました。

（医療関係者？ 即座の判断ができるのですね。看護師長かも）

お名前も聞かず、どこのどなたか分かりませんが、その折は本当にありがとうございました。

救急車の手配をする様子で、これは『おおごと』だと気付き、通訳魂がムクムクと。「次の現場のキャンセルを」と言うと、女性職員がすぐ電話をかけてくれました。現場に穴をあけなくて良かったとホッとしました。自分の命より仕事を第一に優先。さすが年の功でした。

病院到着直後は質問にもスラスラ答えていましたが、夕方に向け反応が悪くなってきました。「右手上げて」「右足上げて」という動作をしているつもりが上がらない。「名前は？」と聞かれても「名前」「名前」と反復するのみ。何と言えよいか???

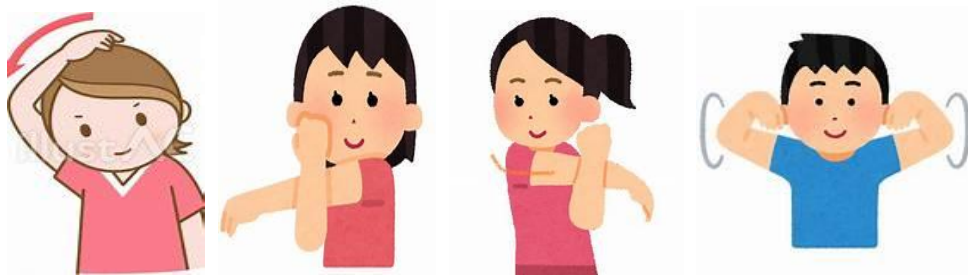
（千葉市班 田村 貴子）

～健康対策班～

朝目覚めたらベッドで手足をブラブラ、背筋を伸ばして座りお腹に力を入れてへこませます。朝食後は朝ドラ「虎に翼」の音楽に合わせて踊ります。最後にスクワット少々。会員さんも高齢化？ 私も若くないので無理はしません。無理をしてこけたら本末転倒。全通研集会は「健康分科会」を選択してきました。行事に参加して語り合いましょう（笑）

健康対策班は、手話通訳者や手話と関わる人の健康を守るための学習を行い、予防に取り組んでいます。手話通訳者の健康調査に協力したり、全国（関東）手話通訳問題研究会の健康対策担当者会議に出席し学習します。行事等を利用して、ストレッチ体操の普及に努め、手話通訳者、手話を学ぶ人達自身が健康について正しく理解できるよう、情報提供していきます。みなさんと一緒に学習していきましょう！

（宇治 昌子）



全通研創立 50 周年記念式典のお知らせ

全通研創立 50 周年記念式典は、2024 年 10 月 5 日（土）、14 時から 16 時に神戸商工会議所「神商ホール」にて行われます。

創立 50 周年を会員の皆さまと一緒に祝いたく、会場へ来られない方も式典の様子を観覧し、創立 50 周年を祝う時間を共有できるようオンラインにて配信することになりました。

ちば通研としては、集団視聴会場を千葉市中央コミュニティセンター講習室 5 に開設します。また、地域班でも集団視聴を準備しています。そして、個人としても視聴できます。

全通研本部からの「配信に関する情報（URL 等）は、10 月 1 日を目途に支部に連絡するとともに全通研ホームページにも掲載します」とのことです。

【データ配信している皆さまへ】

データ配信にご協力いただきましてありがとうございます。

データ配信希望者の皆さまには、現在、全通研からのお知らせが全通研ホームページ、ちば通研のちば通研だより、講座や学習会のお知らせは、ちば通研のホームページに掲載されていますので、お知らせします。

- 1 全通研 NEWS、読みたい見たい
- 2 ちば通講座Ⅱ、総武地区・南総地区の地区講座

全通研 NOW は毎回、更新されますので、見る習慣をつけてください。
よろしく申し上げます。

私のイチオシ

…佐倉班…

私のイチオシは、リカバリーカレッジです。リカバリーカレッジとはイギリスで始まり、精神科デイケアに取って代わるもので、治療機関でも支援機関でもなく、純粋な学びの場です。日本では東京から全国各地に広がり、現在は10数か所あると言われています。千葉県内には、佐倉・茂原・市原・千葉の4か所にリカバリーカレッジがあります。当事者と支援者が共同創造で運営するのが特徴で、誰でも参加できます。一言で言うと、「リカバリーについて学ぶ場」ですが、リカバリー概念を地域に広めていく役割も担っています。リカバリーカレッジへの参加が、リカバリーの一助となる人もいます。

リカバリーとは、1980年代後半から登場し始めた概念です。当事者が人生の意義を再発見していくプロセスのことであり、単なる病気の回復のみを意味するのではなく、自分らしい希望のある生活や社会関係の再構築を目指すことです。必ずしも発病前の状態に戻ることはありません。「回復」より幅広い意味を持つので、「恢復」と書く人もいます。

病気の回復よりも当事者の主体性の回復を重視します。新しい人生・主体性の回復を探っていくことです。当事者自身の希望が最優先されることが大事で、その希望を一つの目標にしていくことが大事です。支援者にとっては、当事者自身の希望に向かってどう達成できるか共に考えることです。

薬を飲みながら地域で支えられて生きているのはリカバリーの姿です。病気と上手につき合いながら自分の人生を歩んでいくことがリカバリーです。その人がその人らしく、自分でも納得のいく人生を送れるようになることです。完全に直線的なプロセスではありません。時にはそのコースは一定せず、つまずいたり、後戻りしたり、まとめ直したりして、再び始まります。

リカバリーがどのような状態を意味するかは、本人にしかわかりません。誰のリカバリーの旅路も同じではありません。ピアサポートはリカバリー志向のサービスです。

私が参加しているリカバリーカレッジ佐倉は、昨年3月に準備会を立ち上げ、昨年9月にキックオフイベントを開催したばかりですが、今年1月・4月・7月にもイベントを開催することができ、まずまずのスタートです。佐倉市内の福祉事業所の一角で、月1回程度、運営委員会を開催しています。運営委員は口コミで集まった当事者5人・支援者3人ですが、忙しくて運営委員はできないけれど、毎回イベントに参加するリピーターも何人かいて、運営を助けてくれています。

リカバリーカレッジ佐倉への参加が、私のリカバリーの一助となっているかはまだわかりませんが、以下のようなものが、これまでの私のリカバリーを助けてくれたと思います。

H:hot line ホットライン	R:role 役割
U:understanding 理解	I:information 情報
M:medicine 医療、薬	G:good food おいしい食べ物
A:aim 目標	H:hobby 趣味
N:nap うたた寝	T:time 時間
	S:self-help group 自助グループ

勿論、「HUMAN RIGHTS 人権」も、これまでの私のリカバリーを助けてくれたと思います。

難しく考える必要はありません。あなたもお近くのリカバリーカレッジへ参加してみませんか？きっとリカバリーへの第一歩を踏み出せるはずです。

地域班通信

- 市原班：いよいよデフリンピック東京2025が来年に。ろう者のスポーツ観戦の環境について勉強中です。NHKの30秒遅れの生放送。字幕ぴったりでした。(S.H)
- 富里班：NHKで2023年に放送していた『どうする家康』が面白くてずっと観ていました。もっと歴史を知りたい気持ちになり、漫画日本の歴史を買おうと検索。エー！！高い。長い期間考え、やはり諦め切れなくて購入。今少しずつ読み進み中、ただ漫画はとも目が疲れる。老眼の私はキツイ。
- 船橋班：最近寝つきが悪い。寝る前にスマホは見ず、ストレッチ・腹式呼吸をする。いろいろ試しているが効果なし！ そんな時出会った本の言葉にハッとした。「どうでもいいことは気にしない」「まーいっか、と逃げることも大切」 普段適当に生きているくせに、寝る前の後悔だらけの1日の振り返り、原因はこれだったか！ お酒の飲み過ぎではなくてホッ・・・笑。(Y)
- 印西班：地震・台風・猛暑等、注意警戒することが多い毎日です。杞憂という格言が死語になるのかもしれませんが。杞の人と同じくらい憂いて丁度いい、そういうのも疲れてしまいますよね。「災害を正しく恐れる」それが出来れば一番。気が遠くなりそうですが、ゼロよりは1の精神で。
- 流山班：昨年もお伝えした、がん征圧・患者支援チャリティーの「リレー・フォー・ライフ・ジャパンちば」を10月26日柏の葉公園で開催します。2人に1人ががんになる時代、仲間と繋がることで「ひとりじゃないよ 一緒に歩もう」と呼びかけている。がん罹患者、支える家族友人、医療者他多くの方、ぜひ参加してみませんか？ (emiko 副実行委員長)
- 成田班：手話通訳問題研究誌に載っている「ありのままを受け止めて」の4コマ漫画はいつ読んでも面白いです。今度、サークルでもおもしろおかしな話をテーマにしてみようと思います！ 最近台風などの猛威が目立っているため、サークルでは防災について勉強会を開くことが計画されています。私自身もこの際に身の回りのことも備えていきたいです。
- 六つ星班：前回に引き続き、私が尊敬するNARUTOのマイト・ガイ先生を紹介します。常に前向きでポジティブ、後ろ向きな言葉は一切ない。私は、マイト・ガイ先生に努力することの大切さを学びました。小さな努力でも積み重なったら、何か凄い大きな事が出来るかも知れない。作中の一つ一つの言葉がとにかく熱い！！(暑苦しい？w)今の時代流行らないのかも知れないけど、私は大好き♡だから、地道に広めていきます。マイト・ガイ 精神！！
- 鎌ヶ谷班：サークルに出前手話教室がある。災害時ろう者に情報が入らず不安な事など話す。手話を教えた後、「虹」を手話で歌ってくれ感動した。また、手話を教えたお礼にポッチャとかき氷のご招待も受けた。子供たちは手話を言葉を覚えるように吸収する。未来の手話通訳士が生まれると頼もしい。種を蒔き大きく実ることが嬉しい。(T.T)
- 白井班：今年も梨の季節が来ました。先日、娘家族との会話で「この梨って幸水？ 豊水？ あれ？ かおり？ 新高？ 新高はまだだよ！」と。梨の種類がすぐにいろいろ出てくるところが白井市民だねー。と笑いました。

わかしお班：母は三姉妹の長女でした。昨年一周忌の際、仲の良かった三女のお墓に分骨させて欲しいとお願いしたら、今も元気な次女の叔母さんが大歓迎してくれたので先月広島に行ってきました。長女と三女が仲良く並んでいる様を見た叔母さんは「うちも並びたいのう」と言いました。微笑ましく、母と三女が「待ってるよ」と言っている様でした。(K.M)

八街班：「イチオシの本は何？」と聞いて読むのが楽しみです。7月の医療班と健康対策班の合宿で、I田さんと本の話で盛り上がり、I田さんお勧めの「あずかりやさん」を紹介してもらい早速4冊読みました。通訳で疲れた頭と落ち込んだ気持ちをほぐしてくれます。

千葉市班：東通研の「伝わる話し方レッスン」に参加。講師は舞台役者、声優、ナレーターの肩書を持つ田上雅晴氏。「話すプロ」の指導は魅力いっぱい。3段階は素敵になった私の話し方で皆さんに感想を伝えられないのが残念！残り関東6支部の学習会も2年以内に目指せコンプリ！オンラインなら気軽に、現地なら特産品も目当てに。

市川班：最近通勤時（朝4時すぎ）にまだ明けやらぬ空を見上げると、「オリオン座」が市川でもとてもきれいに見えるようになりました。「オリオン座」と言えば歌にもあるように冬の星座です。まだまだ暑い日が続いていますが、夜空では着々と冬の準備が始まっているのですね。それにしても一体いつになったら涼しくなるのでしょうか？

かずさ班：9月10日のかずさ班は「手話言語条例についての学習会」。この地域に引っ越してきた全国的にも有名な「Kさん」→うらやましいでしょ？を講師に会員21人（富津市行政3人含む）、4市ろうあ協会役員5人が参加しました。目指す社会を、地域をみんなで考えています。(J)

海匝地域班：サークルに中途失聴の方が入会。20歳頃から聞こえにくくなったそうです。主婦、母、嫁の務めなど大変だったと思います。いえいえ、パワーがあって、明るくて尊敬できる女性です。地域班の先輩から中途失聴の方の会があるよ、と教えていただき、一緒に参加します。最近の私のワクワクです。

八千代班：「地域で支える認知症」講習に参加した。周りで「私…かも？」「心配」「こわい」などの声を聴くようになり、支えられる側になる日も近いけど…まだいけるかなと参加した。認知症は【特別】ではなく老化現象の一つと捉えて、楽しく暮らすことが一番。だいたい言葉は3つ。「ゆっくりでいいよ」「忘れても大丈夫」そして「ありがとう」。心がけたい。

松戸班：9月の学習会（参加者25名）は明晴学園元校長の榎陽子氏から「ろう教育よもやま話」という内容でろう学校の歴史から教育方針に至るまで、動画も交えてお話をさせていただきました。特に小学生の“土曜日授業の賛否”についての討論会は利点欠点も整理し、手話で自由に議論する姿は圧巻でした。聞こえない方にとって手話は言語なのだと思えて感じました。(住吉)

習志野班：先日業者の方に来ていただき、高齢のろう者と一緒に福祉用具の紹介と使い方を教えていただきました。杖の持ち方は腰骨までの高さで持ち、握り方も中指と人さし指で下から挟み親指を添える方法です。歩行器は、家の中で使えるお盆を乗せられる物や、スーパーの買い物時かごが乗っかるものなどありました。車椅子ではアシスト型のものがあり坂道を上るときに楽に押せるようです。様々な福祉用具について知る事が出来ました。

【地域班通信の行間を空けることができず、申し訳ありませんでした（広報部）】

役員短報

日時：9月1日（日） 13:00-15:00

会場：オンライン

参加者：16人

<主な議題>

○三役

- ・10月5日の全通研50周年記念式典における集団視聴会場を千葉市中央コミュニティセンターに開設する。地域班での集団視聴会場は地域班で協議して決めてもらう。
- ・50周年記念誌購入の予約を開始した。地域班で取りまとめる。地域班に所属していない人は、事務局まで申し込んでもらう。

○広報部

- ・10月号掲載記事の確認
- ・500号を記念し、地域班通信はちば通研だよりのことに特化して原稿を募る。

○組織部

- ・会員拡大 309人（8月31日現在）
- ・11月3日開催するちば通研講座Ⅱはハイブリッドで開催する。開始時間を14時からとした。
- ・講師派遣を活用した地区講座や地域班学習会の一般の参加費は500円に統一。

○研究部

- ・10月14日開催するちば通研集会のシナリオと役割分担を確認した。多くの参加者を募る。

<部・班の報告>

○三役から

- ・関東通研が創立20周年になる。記念誌を作成することに決まった。原稿の執筆依頼あり。

○広報部

- ・ちば通研だよりの地域班会議の報告のあとに順番に参加地域班から2人の感想を記載する。地域班会議で確認。

○組織部

- ・地区講座については、ハイブリッドで開催する。そのため、組織部から支援者を地区講座当日に派遣する。

○N-Action ちば学習会

- ・10月6日（日）、20時からオンライン

○健康対策班

- ・8月31日（土）、全通研の健康対策担当者会議にオンラインで参加した。
- ・健康普及員は4科目を履修することで普及員証が授与される。その後、健康についての取り組みをしていく。

○保育・子育て支援班

- ・8月24日 千葉市の女性部と青年部主催の講演会に3人が出席した。

○ろう教育班

- ・9月14日（月・祝）に9時から学習会を予定。

○ICT ちば

- ・Google かマイクロソフトでフォームを作成するか検討している。

○関東手話通訳問題研究会

- ・9月22日（日）、関東通研支部代表者連絡会議、午後に健康対策担当者会議を予定。

今後の予定

○10月5日（土） 全通研

創立50周年記念式典・祝賀会（神戸）

○10月6日（日） 臨時代議員会（神戸）

N-Action ちば学習会

○10月12日（土） 千葉聾学校銀杏祭

手話検定試験5・4級

○10月13日（日）手話検定試験3・2級

○10月14日（月・祝） ちば通研集会

全通研 健康普及員スキルアップ講座

○10月18日（金） 自治体フォーラム

○10月19日（土） 地区講座（総武）

手話検定試験 準1・1級

○10月27日（日） 地区講座（南総）

全通研 育ちあい

医療班学習会

○10月29日（火） 広報部会議

お知らせ

〇ちば通研ホームページにアクセス
アドレスは以下のとおりです。

<http://syuwa-chiba.la.coccan.jp>

QRコードでホームページに
アクセスできます。

会員専用ページは
パスワードが必要です。



〇ちば通研へのお問い合わせ

ちば通研への連絡は下記のアドレスへ。

E-Mail : syuwa@nifty.com

〇原稿募集

原稿掲載にあたり、150字程度でお名前は本
名もしくはニックネームを明記。

次号の原稿締切は10月15日(火)です。

E-Mail : c-koho@c2ken.sakura.ne.jp

FAX : 043-247-1201 (早朝・深夜は不可)

会費の納入のお願い

2024年度の会費納入をお願いしています。

会費は振込にてお願いいたします。振込先は以
下のとおりです。なお、申し訳ありませんが振
込手数料はご負担ください。複数人まとめたの
納入は、全員の名前をご記入ください。

〇年会費

会費 10,000円

読者会員 6,500円 (聴覚障害者のみ)

〇郵便振込先

口座番号 : 00120-4-708239

加入者名 : 千葉県手話通訳問題研究会

けいわん110番

〈医療的な相談窓口〉

滋賀医科大学社会医学講座 (衛生学)

TEL : 077-548-2187

FAX : 077-548-2189

〈仲間を守る取組みに関する相談窓口〉

FAX : 057-451-3281

*何かありましたら、いつでも、ちば通
研健康対策班に、ご相談ください。

FAX : 043-247-1201

〇安否確認の報告はこちらへ

ちば通研では、2014年度から安否確認訓練
をしています。最近、災害はいつ起きて
もおかしくない状況です。そのため、会員
の安否確認をよりスムーズにするため、専
用のフォームを開設しました。

災害の時は、自分から

アクセスして状況を

ちば通研に報告してください。

<https://forms.office.com/r/5bav1Tct53>



あ と が き

映画『沈黙の50年』横浜上映会に参加しまし
た。上映の前に、名古屋地裁で優生保護法裁判
を闘った原告の尾上敬子さんと支援する会の中
嶋宇月氏との対談があり、長く苦しかった最高
裁判所勝訴判決までの日々が語られました。先
日の全通研Webアカデミーで新里宏二弁護士
が、最高裁判決は優生保護法問題全面解決の通
過点であるとお話されたとおり、全面解決への
歩みは続いています。(K)

鎌ヶ谷班の地区学習会に参加しました。講師
は川根紀夫さん「手話言語条例の制定につい
て」社会科の苦手な私にもわかりやすい身近な
具体例を出してのお話し、またグループでの話
し合いもあり、受け身ではない学習会でした。
手話の上手い下手、聞こえる、聞こえないに関
わらず、手話に携わっている人皆が覚悟して活
動しなければと聞き共感。単なる条例にしては
いけないと改めて思いました。(S)